

世界の人びとのためのJICA基金・業務完了報告書

1. 業務の概要:	
(1)事業名	モンゴル国 女性の職業訓練
(2)実施団体名	特定非営利活動法人 国際交流は子どもの時から・アジアの会
(3)実施期間	平成21年10月1日～平成22年3月31日
(4)実施国	モンゴル国
(5)活動地域	ウランバートル市バヤンズルフ地区
(6)活動概要	
①活動の背景:	
<p>モンゴルの人口の約半分は首都のウランバートル市に住んでいる。首都の人口の半分、約70万人が「ゲル地区」(貧困地区)に住んでいる。子どもを持っている女性の70%くらいがシングル。マザーで、しかも、無職、無収入である。ほとんどが地方から来ていて、中には住民登録もしていない。通常は一日2食だが、一食だけの家庭も多い。</p> <p>住民には栄養不足、病気も多い。</p> <p>「無職、無収入、子どもに十分な教育をしてやれない、女の子は10歳代で出産も多い」の悪循環が続いている。社会的なインフラなど生活環境も最悪の状態である。</p>	
②活動の目標:	
<p>無職&無収入の、女性たちに「働いて、収入を得る。その金で子どもを育てる。毎日十分に食べられる」ことが、自分たちの力で出来ることの、基礎条件を作る手助けをする。グループで訓練して、友人たちと「貧困の問題解決に取り組む」を行動に移す。</p>	
(A) JICA 基金の助成で、必要な用具、講師などを揃える。	
(B) 当会は、訓練の場所を無償で与える。作った品を日本で販売する手助けをする。	
(C) 女性たちは、手に職をつけたことで、実際に収入を得ることが出来る。将来に夢が出来る。モンゴルの地域社会の変革につながる。	

2. 業務実施結果:

(1)実施した内容 *活動の具体的内容ごとに、実施した内容について記載下さい。

【実施内容①】概要

地区の4つの役所の推薦も受けて、50人の女性(49人がシングル・マザー)を選んで前半30人、後半20人の訓練を行った。前半も後半も10人を一組にした。各組は24日間、一日6時間とした。

【実施内容②】詳細

モンゴルの人口の半分が従事している家畜の放牧から生産する、羊毛、ヤギの毛(カシミヤ)を利用して、手作業で糸を作り、編み物を作る。また、フェルトから履物やお土産品を作る技術を得た。訓練は、原毛を洗濯、染色、糸をつむぐ、フェルトを作る工程である。

上記の時間の訓練で、編み物2着、履物2足、小物2個を作ることが出来るようになった。デザインの勉強は専門家に来てもらい、「売れるもの」の条件である品質についても勉強した。

(2)実施成果: *上記実施内容ごと、あるいは、全体を通しての成果を記載下さい。

女性たちは、訓練を受けるまで、「だれかが、いつか、自分のために、金、物をただでくれるまで待つ」考え方から、「無職、無収入は自分が前向きに生きることで解決できる」になった。また、一人では無力でも、同じような境遇の友達が集まれば、意見の交換も出来て、力を合わせれば、仕事も出来る体験をした。

訓練の成果として、自分たちが作った品物を日本で販売して45万円の売り上げがあった。仕事をして収入を得る喜びを体験できた。20105.6.現在、今年の秋に納品する、予約を日本から約150万円相当を受けている。JICA基金で購入で得た用具と、当会の場所提供と、販売支援で、「今後も継続出来る」夢が広がった。

また、モンゴル国内でも販売できるようになった。

(3) 得られた教訓など:

* 今回の事業を通して経験したエピソード、感じたことなどがありましたらご記入下さい。

(A) 一番のやる気を引き出すのは「働いて現金収入を得られる」ことが、地域おこしに直結する。(B) 人のネットワークが大事。(C) 計画的に生活向上に取り組みが出来るようになった。(D) 交通費の補助が必要だった(結局、他団体から助成を受けた)。(E) 品質とデザインが遅れていた。日本で売るためには更に改善が必要。(F) 日本に無料で運搬する方法(人)がもっと必要。

(4) 今後の活動・フォローアップの方針:

* 今回の実施期間終了後の、現地での活動やフォローアップの方針・見通しなどにつきまして記載下さい。

2010. 6. ~2011. 3. 日本での販売支援と、品質とデザインの向上の指導。

2011. 4. ~2012. 3. 首都の近隣村落には取り残された無職、無収入の母たちが多い。

今回訓練を受けた中から、優秀な者を指導者として派遣したい。

3. その他(エピソード・感想・写真など)

(1) 活動中のエピソード・感想など

* 今回の事業を通して経験したエピソード、感じたことなどがありましたらご記入下さい。

(A) 乳飲み子を連れてきた母は、当会のスタッフが子守を引き受けた。

(B) 訓練する母子センターには、絵本図書館、庭には遊具があり、母親の訓練が終わって、一緒に帰宅した。帰りに、店で食べ物などを買うことが出来た。以前は出来なかった。

(C) 朝自宅を出るとき近所の人に「今日は仕事に行く」と言えた。10数年忘れていた言葉。

(D) 利益の現金を、皆で数えて「うれしいねえ」と言って、から銀行に預金した。

(E) 他団体や役所などの見学が多く、訓練はモンゴルのテレビで全国放送された。テレビに出たことがなかった女性たちが大喜びで、録画の前には化粧をして、更にやる気になった。

(2) 活動の写真(別に添付もあります)

* 活動の様子がわかる写真がありましたら添付下さい(枚数は問いません。多い方が望ましいです。またキャプション(説明)を簡単に付けて頂ければ幸いです)。



共同作業場で訓練をテレビ局が撮影中
用具は JICA 基金で購入



専門家によるデザイン&品質の勉強
海外で販売するためには必要